

れんこん村のわくわくネットワーク & 空き家調査隊



愛西市の西半分にあたる立田・八開地区は、平成の大合併前は立田村と八開村でした。岐阜県・三重県との県境を流れる木曽川沿いにあります。江戸時代には、立田輪中として、何十という村に分かれていました。その村々の多くは、今も、そのまま続いています。

立田・八開地区は、名古屋駅から車で30分という立地にもかかわらず、全域が市街化調整区域です。そのため、新たな人口流入・産業立地が望めず、近年、人口が急減し、「消滅可能性都市」状態です。木曽川がもたらした肥沃な土地で、何百年もの間、お米と蓮根を中心に、苺栽培などの農業で生きた村々です。

しかし、近年、三世代居住が減り、高齢者のみの世帯が増えて、基幹産業である農業後継者が居なくなり、農村集落としての文化の継承や共同体の維持が難しくなり、さらには、地域で暮らし続けることさえ困難になりつつあります。空き家が増え、それが空き地となっていく中、活用することもままなりません。

こうした大都市近郊の農村地域での暮らしを持続を、ということで、取り組んでいます。

木曽川左岸邸に面した集落



自然豊かな木曽川



屋根が抜け落ちている

木曽川沿いの集落を歩く



空き家

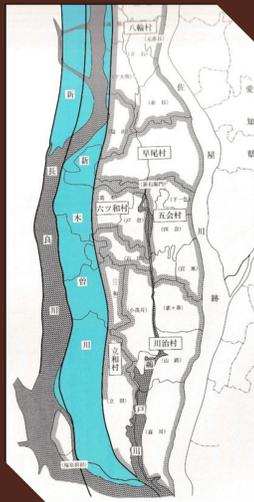
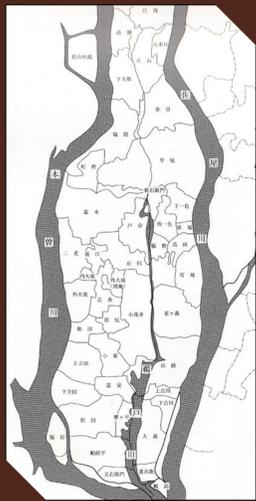


集落で神社を守る



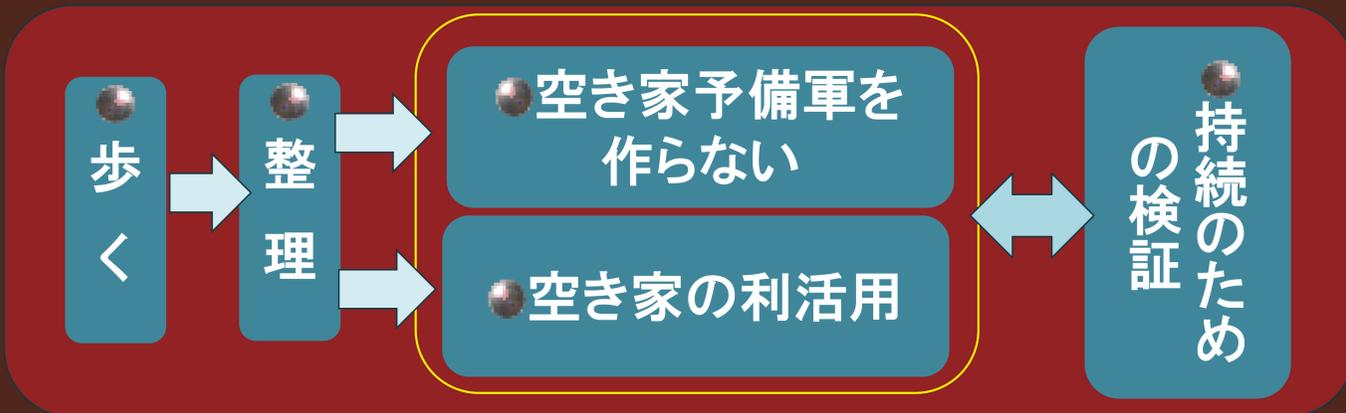
立田輪中の村々

明治初年（左）
三川分流完成後（右）



大都市近郊の農村地域での 暮らしの持続を！

活動のルーチン



「むら歩き」では、空き家と、空き家になる可能性が高い高齢者のみの世帯のことを始め、村の様子や村の暮らし等を、農作業をされている人たち等にもお話をうかがいながら現地調査をしています。

加えて、歴史やデータ等も調べる中で、長年の水との闘い、そして、近代のデレーケの三川分流で土地を追われたこと等があっても、暮らしを守り続けて来た村々だと、改めて思いました。

こうした村々の、文化や暮らしを無くしてしまいたくないと考えています。

そのために、調査を基に、提案と、私たちができる事業（1つのモデルにしたい）に取り組んでいきます。

募集！

一緒に調査活動しませんか？

愛西市「空き家調査隊」幹事：安田／連絡先：090-7028-8452